

第 5 章

【 新たな関わり・利活用 】 遠賀川と私たちの未来

5-1 遠賀川とサケ 84ページ

5-2 遠賀川での取り組み 86ページ

遠賀川に鮭が来ることを知っていますか？どうやって来るのでしょうか？
鮭やたくさんの生き物たちを守ったり、みんながもっと利用しやすい遠賀川にするためにどんな活動がされているのかな？
—遠賀川と私たちの暮らしの未来について考えましょう。

(1) サケを呼び戻そう

遠賀川には、サケを「神の使い」と信じ「サケがのぼってくれば豊作になる」と信じられていて、嘉麻市の「鮭神社」では、毎年「献鮭祭」という神事が行われています。

昔は、遠賀川にも多くのサケが上っていましたが、遠賀川流域で、石炭が掘られていた時代は、川の水が黒く濁り、サケを見ることができなくなりました。

その後、多くの炭坑が閉山になり川の水が少しきれいになった昭和53年（1978年）に伊左座で体長約80cmのサケがとれました。

これを機会に「遠賀川にサケを呼び戻す会」が中心となり、サケの稚魚を川に放流したり、川をきれいにしたりする活動が盛んになりました。

遠賀川に近い小学校では、冬の間サケの稚魚を育てて、春になって遠賀川に放流する活動を行っています。

近年も遠賀川河口近くで、サケがのぼっているのが発見されています。人々の努力が少しずつ実を結んできているのでしょう。



平成20年に河口堰で発見されたサケ



サケの放流に参加してみよう

(2) 遠賀川河口堰魚道について

遠賀川河口堰には、「魚道」という魚の通り道があります。昭和55年の河口堰完成の時からあるものですが、泳ぐ力の弱い魚にとっては、とてもものぼりにくい魚道でした。

そこで、平成21年から3年間にわたって、遠賀川河口堰魚道および周辺空間を対象として、「川と海をつなぎ、魚たちがのぼりやすく、生き物も人も集う魚道」をコンセプトに、地域、行政、大学、学識経験者が一体となって多種・多様な生物が通れて、定着できる多自然魚道を造りました。

生物多様性と親水性の向上により、今後は、環境学習の場や住民の憩いの場として活用されることが期待されています。

※多自然魚道内の見学や活動を行う時は、遠賀川河口堰に連絡をお願いします。

基本的な考え方（4原則）

- 1) 遠賀川の原材料を活かす…遠賀川にもともとある材料を活かす
- 2) 自然の線形を活かす…人工的な直線、曲線は可能な限り避ける
- 3) 草付きの河岸を形成する…子ども達が遊ぶ場は草付きが多い
- 4) 河口干潟を形成する…河口域の生物相を多様化する

魚道内状況



工事前状況（2009.11）



工事完成状況（2012.6）



芦屋東小学校児童による石並べ（2012.5）



多自然魚道内学習状況（2012.8）

どんな魚が使っているのか調べてみよう

5 遠賀川と私たちの未来

-2 遠賀川での取り組み

(1) 遠賀川流域宣言

— より美しい遠賀川を次代へ～遠賀川流域リーダーサミット開催！ —

遠賀川の水環境改善について、流域自治体の首長が話し合う「第3回 I LOVE 遠賀川流域リーダーサミット（主催：NPO法人遠賀川流域住民の会・国土交通省遠賀川河川事務所）」を平成24年1月22日（日）、飯塚市で開催しました。

このサミットにおいて、流域が一丸となり連携に向けて手を繋ぎあうことが確認され、遠賀川の歴史にとって大きな一歩となりました。



遠賀川流域宣言後、互いに手を取り合う流域の22首長たち、福岡県知事、遠賀川事務所長

遠賀川流域宣言

遠賀川は人々に限りない恵みを与え、生活に潤いと調和をもたらす私たちの「生命の川」です。そして産業、経済の礎となって流域の歴史を育んできました。

しかしながら、近年における社会経済の変化に伴い、水質汚濁やゴミの不法投棄などにより河川環境が悪化してきました。

私たちは、悠久の歴史を刻んできた母なる川、遠賀川を流域22市町村共有の貴重な財産であると認識し、子や孫、そして将来この流域を訪れるすべての人たちのために、美しく豊かな河川環境とその生態系を守り続けなければなりません。

ここに、流域に住む私たちみんなが連携して次のことに取り組み、遠賀川をより美しい川として次の世代へ引き継ぐことを宣言します。

1. 私たちは、水源の山々から海までつながり響きあう、生命の環を育てます。

遠賀川の豊かな水の流れや生態系を守るため、山・川・海と水でつながる流域の人々がお互いを思いやり、一体となって水源の森林や多様な生物の生息・生育環境を守り育てます。

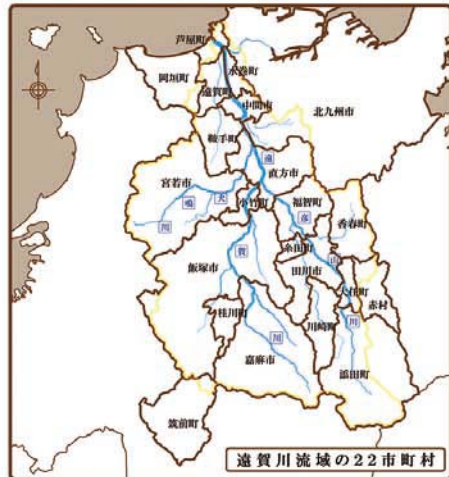
2. 私たちは、ふるさとの川、遠賀川を誇りに思い、みんなで守ります。

遠賀川が、安らぎや愛着を感じるふるさとの風景となるよう、人々の五感に心地よい川づくりに取り組みと共に、川に学び、川を見守る活動を通じて、遠賀川をより深く理解し、大切に守ります。

3. 私たちは、深い感謝の心をもって、遠賀川に礼をつくします。

遠賀川をより清く美しくするために、住民、事業者及び行政が連携して、関連する法令を守り、汚水処理施設の整備促進、生活排水対策、ゴミゼロにむけた一斉清掃など日々の努力を続けます。

平成24年1月22日



遠賀川流域の22市町村

北九州市長	北橋 健治	直方市長	向野 敬昭
飯塚市長	齊藤 守史	田川市長	伊藤 信勝
中間市長	松下 俊男	宮若市長	有吉 哲信
嘉麻市長	松岡 賢	芦屋町長	波多野 茂丸
水巻町長	近藤 達也	岡垣町長	宮内 實生
遠賀町長	原田 正武	小竹町長	松尾 勝徳
鞍手町長	柴田 好輝	桂川町長	井上 利一
筑前町長	田頭 喜久己	香春町長	加治 忠一
添田町長	寺西 明男	大任町長	永原 良克
川崎町長	小田 幸男	福智町長	伊藤 讓二
赤村長	春本 武男		浦田 弘二

※市町村、敬称略

(2) 遠賀川流域の住民活動

私たちのふるさとを育む、母なる川「遠賀川」。

流域には、居心地のいい安らぎと愛着のある遠賀川をめざして川に親しみを持って活動している住民団体の方々が多数おられます。その活動内容を紹介します。

清掃活動

遠賀川流域では、自分たちの住んでいる近くの川を定期的に掃除しています。

川の周りはもちろん、川に浮いているゴミは船で取り、川の中にあるゴミは川の中に入って取ります。



カヌー体験

遠賀川流域には、多くのカヌー乗り場がつけられています。カヌー教室に参加すれば、気軽にカヌーを楽しむ事ができます。



その他の活動

遠賀川では、その他にも、「イカダ下りレース」、「コスモスを植える活動」、「サケをよみがえらせる活動」など多くの活動が行われています。

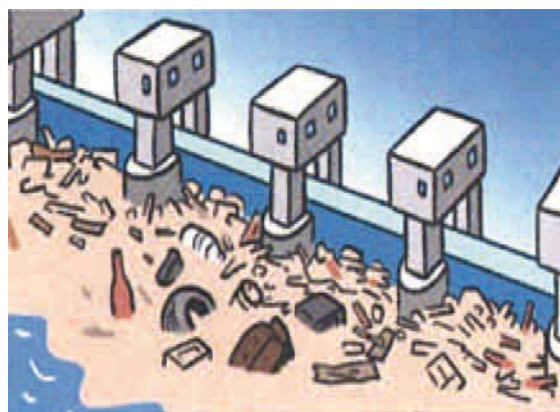


近くで行われている活動に参加してみよう

河川敷きに不法に投棄されたゴミ



洪水の発生!!



洪水のたびにゴミが河口堰に流れ着きます！



遠賀川河口堰に流れついた大量のゴミ



川に不法投棄されたバイク

町のゴミ処理の現状について調べてみよう

5-2 遠賀川での取り組み

(4) 河川環境学習について

遠賀川下流域河川環境教育研究会（福岡県北九州県土整備事務所、北九州市上下水道局、遠賀川河川事務所）では、小中学校の児童向けに河川環境学習を支援しています。

川にすむ水生生物調査、水質調査、流水実験などに関する学習のお手伝いを行っております。

水生生物調査

川にすむ生き物を採取し、その種類を調べることで水質を判定する調査です。



水生生物調査



水生生物調査

水質調査

CODパケットと透視度計を利用して水質を調査します。



中学校への出前授業



流水実験

身近にある遠賀川を題材に川について学習します。

また実験装置を利用し、流れる水の3つの作用（けする・はこぶ・つもる）と曲線における水の作用（曲線の内側・外側の違い）を学べます。



水辺体験学習

学校近くの河川で、水辺の生物調査を体験することにより、生活の中にある身近な自然環境と、生活との関わりについて学習します。



施設見学遠賀川には、たくさんの動植物がすんでいたり、みんなの飲み水の水源としても使われています。

浄水場じょうすいじょうや遠賀川河口堰かこうぜきでは、事前に連絡をすれば、見学をすることができます。



河口堰見学



河口堰見学



浄水場見学



近くの施設に見学に行ってみよう (99ページ参考)

5-2 遠賀川での取り組み

(5) 遠賀川下流域河川環境教育研究会について

小学校などの総合学習をより良いものにして行こうという思いから、平成19年1月に関係機関が集まり、この河川環境教育研究会が設立されました。出前講座を希望する学校に対しては、「水辺の環境教育」や「流水実験」等を実施しています。

また、定期的に会議を開催して、総合学習プログラムの企画立案や実施報告等を行っています。なお、研究会への参加は、毎年度の初めに各小学校に対して公募していますので、興味の有る方はどなたでも参加することができます。

● 遠賀川下流域河川環境教育研究会

<研究会の設立>

- 設立 平成19年1月
- 目的 ①「総合学習教育」を行うための情報提供(収集)
②人材育成及びネットワークづくり

<研究会の構成>

遠賀川下流域河川環境教育研究会(通称:川まなび交流会)
～共通のテーブルで議論する場～

教育関係者・教育委員会及び小学校
(芦屋町、水巻町、遠賀町、中間市、岡垣町)

河川管理者
・国土交通省遠賀川河川事務所
(管理課・河川環境課・河口堰管理支所)

自治体
・北九州市(上下水道局)
・福岡県北九州市県土整備事務所

環境教育のための人材・ネットワークづくり、場づくり、プログラムづくりが行えます